

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195800016		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム ふるさとの丘		
所在地	夕張郡長沼町東2線北15号		
自己評価作成日	平成28年2月26日	評価結果市町村受理日	平成28年4月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0195800016-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームを地域の方々に広く周知していただき、交流の場としてだけでなく様々な用途でご利用くださるよう町内会様等へ働きかけを行い、現在までに婦人会の方々や地域の方々の集会所(コミュニティ)として、また皆様へ催し物をご提供して下さる場としてご活用いただきました。毎月第四日曜日に地域のお茶の間「ライスカレー」として地域の皆さんが集える場を提供しています。利用者様のレクリエーションとして広い敷地を利用しパークゴルフ、野菜の栽培など生活に楽しみを与えることを重要とし日常生活環境を整備することを含め生活全体の心地よさを提供できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園風景が広がる自然豊かな住宅街にある1ユニットのグループホームである。保育所を改造した建物で、広い敷地内にはパークゴルフ場や畑、東屋もある。建物内部は広く明るく清潔で、随所に美しい鉢植が置かれている。居間兼食堂には大きな窓があり、利用者はゆったりと広い庭を眺めることができる。車椅子対応のトイレも数多く、広くて清潔である。事業所内に地域交流室があり、毎月第4日曜日には「地域お茶の間ライスカレー」が開催され、地域と利用者・家族等の友好の場となっており、利用者の友人・知人も参加している。毎日、彩りが豊富で、美味しい食事を提供している。法人で1週間ごとに献立を立てているが、誕生日には、食事の他に手作りのケーキやゼリーを用意したり、ひな祭りやクリスマス、正月等の行事にはちらし寿司等の特別メニューを提供している。利用者全員が収穫に参加している畑で採れたゴボウやサツマイモ、とうきび、トマト等多種の野菜やスイカが食卓を賑わせている。排泄の自立に向けた支援を行っており、全員の「日常生活チェック表」で個々の排泄パターンを把握し、日中は全員がトイレで排泄できている。利用者は、暖かい時期は周辺を散歩したり、庭でパークゴルフを楽しみ、月2回の関連グループホームの音楽療法教室に出かけている。年間行事では栗山公園での花見や紅葉狩り、西長沼の白鳥見物などを楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的(ミーティング時)に理念を唱え、その意義についても管理者を含めたスタッフ間で確認し共有できるように努め実践へと繋げています。	地域密着の意義を踏まえた事業所独自の4項目からなる理念があり、パンフレットや共用空間に掲げられている。理念は全職員に配布され、2ヵ月ごとのミーティングで確認されている。職員は理念を良く理解し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当ホームを幅広くご利用いただけるよう地域の方々へ働きかけ、コミュニティなどの場として活用いただいています。小学校の学芸会など招待されたり地域の盆踊り大会に参加しております。	町内会の盆踊りに参加し、事業所の夏祭りには焼き鳥の屋台等を演出して近所の方を招待している。散歩の時は近所の方に野菜の提供を受けることもある。近隣の小学校のお祭りには、小学生が招待状とポスターを届けに来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月1回行っております地域の方々へ向けた交流会の場などを通じて、認知症の方々への理解、身体面のケア、精神面のケアなど日々の実例を基にお話して頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて当ホームの活動内容について報告し、そこでいただいたご意見を参考にサービスへ繋げられるよう努めております。評価への取り組みについては今後、報告していきたいと考えております。	運営推進会議は年2回、町の係長や民生委員、地域代表、家族等が参加し、虐待・身体拘束や感染症、口腔ケア等について話し合い、案内や議事録も全家族宛に送っている。管理者の交代もあり会議の定期的な開催と評価についての話し合いは今後の課題である。	運営推進会議の概ね一定間隔での定期的な開催と自己評価・外部評価について報告や話し合いを行っていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長沼町の実施するサービス調整会議(月1程度)へ出席し他事業所とサービスを含めた実情や現状、困難事例等を報告し合い、様々な専門分野の方からアドバイスを受けられるような関係にあります。	運営推進会議に町の係長が出席している。また、町の「サービス調整会議」に管理者が毎回参加し、地域包括支援センター職員と情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる具体的な行為をマニュアル化し共通の理解へと努め、身体拘束の排除に積極的に取り組んでいます。	「身体拘束排除マニュアル」が整備されている。また、「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」が厨房の壁に掲げられ、職員は内容を良く理解している。玄関は日中は施錠せずセンサーで人の出入りが分るようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修を行い、事業所全体で共通の理解をもって虐待が見過ごされることのないよう努めており、その防止についても力を入れています。		

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を学ぶ機会があったが、これまでその制度を利用するに至るような事例はありませんでした。必要性があると判断した際には、それらを活用できるよう支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭だけではなく文書も用い十分な時間をかけ説明を行い、納得いただけるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者もみえる行事や運営推進会議等の際に意見、要望があれば話し合いの場を設け運営に反映させていきます。	殆どの家族が毎月2回程度利用者を訪問しており、週2～3回訪問する家族もいる。家族意見は利用者ごとに「家族ノート」に記載して全職員で共有している。利用者ごとに作成される「ふるさとの丘通信」を、毎月家族宛に発送している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	よりよい職場環境をつくるためミーティングやその他、思いついた時等に意見、提案を出してもらい、それが反映されるよう話し合いの場を設け実行しています。	管理者は、朝の申し送り時や2か月に1度のミーティングの時に職員の意見を聞いている。また、随時、職員の相談に応じている。前回の外部評価の取り組み事項である、職員の役割分担については、現在検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、やりがいや向上心を持てるよう個々の能力に合った責任ある仕事を任せ、それに見合った給与等を含めた労働条件の整備に努められています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員がケアの質の向上を図れるよう研修の機会を確保していただき、実践へと繋げることを推進されています。4社合同職員研修会を地実地しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上やネットワークづくりを目的に同業者主催の研修や勉強会へ参加させていただいています。4社合同職員研修会を地実地しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始にあたり、ご本人が抱えている問題や不安へ耳を傾け主体性を尊重し安心できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始にあたり、ご家族の抱えている問題等を伺い信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がどのような支援を必要とし望んでいるのかを幅広い視野で見極め、柔軟な対応ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご本人を介護されるだけの弱い立場に置かず、互いに共生するものとしての関係性を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご本人を支援する上でご家族へも協力を求め、ご家族参加型の支援となるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と共にご本人の知人、友人やご自宅など大切にされてきた場所との関係を継続できるような支援に努めています。	昔の同級生が毎年訪問してくれる利用者が1名いる。また、毎月事業所で開催される「地域お茶の間ライスカレー」には、地域に住んでいる利用者の友人・知人の訪問がある。正月を家族と過ごしたり、毎週2回、定期的に仏壇にお線香を上げに行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係、利用者の個々の性格など把握し孤立することなく関わり合い支えあえるような支援に努めています。		

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等による退所後も定期的にご家族と連絡を取りつつ経過を見守り、状況に応じ相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少しでもより良い生活を送っていただくため、希望や意向の把握に努めています。	言葉で表出できない利用者には、表情や目の動き等を参考にして、思いや意向を把握している。また、全員の基本情報やアセスメントシートを3ヵ月毎に更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	限りある資源の中で、様々な生活習慣をできるだけ変えることなく生活スタイルを維持、継続出来るような生活歴等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った支援を提供するため、そうした現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の場だけでなく日頃いただいているご本人やご家族の意見等も参考に、ご本人の現状に即した介護計画となるよう努めています。	利用開始時に介護計画を作成し、その後は1ヵ月、3ヵ月で更新し、状況が変化した際は随時更新している。日々の記録は介護計画目標をチェックする形式になっているが、利用者の様子を観察しながら具体的に記録するまでには至っていない。	日々の記録については、利用者の様子を介護計画目標に基づいて記録し、次の計画に生かしていくことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を介護計画に照らし合わせながら記録し、職員間で連携をとり情報を確認しながら実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じ、既存のサービスに捉われない柔軟な発想で対応するよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを提供できるよう地域資源を一人ひとりの暮らしへ結び付けることに努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り、それまで通院されていたかかりつけ病院で希望の医療を受けられるよう、支援に努めています。	協力医療機関の町立病院は通院対応だが、訪問診療に対応しているかかりつけ医もいる。通院は基本は家族対応だが困難な場合は事業所で支援している。医療情報は「受診経過記録」で全職員が共有している。毎週1回、看護師による訪問看護もある。	

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者様が適切な診療、看護を受けられるよう看護職員へ一人ひとりの情報を的確に伝えることに努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、安心して治療を受けられるよう、また認知症の進行が懸念されるため早期に退院できるよう、病院関係者と面会時や電話での情報交換、相談に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた方針について契約書に明記されており、実際に状態が悪化しつつあり回復が見込めない可能性があるため医師より診断された場合や想定される場合、ご家族や医師と今後の方向性について協議し、実践へと繋がるよう努めています。	利用開始時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を本人・家族に示して内容を説明し、同意書に署名捺印を得ている。現在まで看取りの経験はないが、今後は看取りに関する勉強会も検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練を行う際に、初期対応等の訓練を合わせて行い、万一の場合に備えています。合同研修にて心肺蘇生、AEDの使用を受講しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時等の訓練を万一の場合に備え日中、夜間想定ともに行い、救急救命訓練の受講もしております。地域との協力体制についてはご案内いただきましたがご多忙の為、参加して頂けることが出来ませんでした。	消防署の協力による昼間対応と、自主訓練による夜間対応の避難訓練を各1回行っているが、地域の参加は得られていない。備蓄品は用意され、職員の救急救命訓練は順次行われているところである。防災マニュアルはあるが、全職員で内容の確認を行うまでには至っていない。	避難訓練に地域の参加が得られることを期待したい。また、職員の救急救命訓練を今後も定期的に行い、防災マニュアルも毎年全職員で確認することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシー、自尊心を損ねない様、意識して声かけ、促しの対応に努めています。	呼びかけは苗字に「さん」づけとし、法人の合同研修会で接遇やマナーを学んでいる。記録類は事務所で安全に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	懇切丁寧な態度で接し、思いや希望を表現しやすい環境をつくることに努め、人格を尊重し自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	限りはありますが出来る範囲の中で最大限、一人ひとりのペースで希望にそった生活を送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際に一緒に洋服を選んだり、ひげが伸びていないか、髪が乱れていないか等に配慮するよう努めています。		

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	同じメニューでも一人ひとりの好みや状態に合わせた食材、硬さ、形状等に配慮し、簡単な調理、準備、下膳、食器洗い等ができる方についてはお手伝いをお願いし共同作業するよう努めています。	彩りが豊富で、美味しい食事が提供されている。誕生日に手作りのケーキやゼリーを用意したり、行事でちらし寿司などを提供している。利用者は下拵えや食器拭きなどを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分が適正量、確保できるよう、一人ひとりの状態、習慣等に応じた支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕食後の3回、本人の状態に合わせた口腔ケアを心がけ、清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすため一人ひとりの排泄パターン、習慣を把握し、自尊心を傷つけない様、排泄の促し、誘導など自立支援に努めています。	半分以上の方は自力でトイレに行くことができ、全員の日常生活チェック表をつけパターンを把握している。誘導時は小声で、直接的な表現を避けている。日中は全員がトイレで排泄でき、夜間は2名が部屋でパッド交換を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食事や水分摂取、適度な運動を促すことで予防に繋がるよう努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に当てられる時間の範囲内で、できる限り一人ひとりのペースや希望にそった入浴を提供できるよう努めています。	月、火、木、金曜日を入浴日として午後を中心に各利用者が週2回の入浴を行っているが、希望すれば、それ以上入浴できる。湯加減を調整したり、会話を楽しみながら入浴している。必要に応じて2人での介助も行っている。家族と近くの温泉に出かける方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握した上で、その時々状況に合わせ臨機応変に対応し、安心して気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の作用や用法、容量等について正しく理解し、日々の状態観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが充実した日々を送れるよう役割を持っていたり、楽しみごとを一緒に行ったり、また模索しつつ気分転換等の支援に努めています。		

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が手薄の時や突発的な事情により希望日に外出できないこともあります。ご家族の協力を得たり、事前に行きたい場所などを伺うことで外出の機会を増やせるよう努めています。ホームの買い物などに同行して頂く事もあります。	暖かい時期は周辺を散歩したり、庭でパークゴルフを楽しんでいる。月2回、関連のグループホームの音楽療法教室にほぼ全員が出かけている。通院や買い物での外出機会もある。年間行事では栗山公園での花見や紅葉狩り、西長沼の白鳥見物などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を遣われる機会は少ないのですが、持っているだけで安心するという方も多いので、管理できる方については所持していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族や大切な方へ電話を取り次いだり、手紙を代筆し送るといったところまで等の対応に努めています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間を出来るだけ快適にご使用いただくため、狭くしたり障害となる物を置かないことやいつも綺麗な状態にしておくことに心がけています。また室内に光や風等を取り入れる際は、不快とならないこと等へ注意を払い「住みよい家」となるよう努めています。	居間兼食堂は東屋やパークゴルフ場などがある広い庭に面して大きな窓があり、開放的である。玄関横の地域交流室にはステージやピアノ、オルガンなどがある。共用空間の壁には版画絵や利用者の作った切り絵作品などが飾られている。ゆったりとしたソファがあり、植物が各所に置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のスペースを広くとり、一人ひとりが思い思いに過ごしていただけるよう表情や行動等へも注意を払い快適な空間づくりに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談、確認しながら、居室へはできるだけ使い慣れたもの、好みのものをお持ちいただき居心地よく過ごしていただけるよう努めています。	室内には備え付けのベッドとたんすがあり、利用者が自由に身の回りの品物や家族の写真、筆記用具、辞書、テーブル、椅子などを持ち込んでいる。壁にもカレンダーやポスター、花の飾り、ジグソーパズルなどを自由に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの日々の状態やその時々危険を予測していき、「できること」や「わかること」を活かし、安全かつできるだけ自立した生活を送れるよう努めています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームふるさとの丘

作成日：平成 28年 4月 10日

市町村受理日：平成 28年 4月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	日々の記録は、入居者の様子を介護計画に基づいて記録しているものの惰性でチェックしたり、具体的には記録されていない。	職員一人一人が適切に介護記録を記入することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者等が記録について個別に指導をおこなっている。 ・記録についての研修を実施していく。 ・ケアカンファレンスを通して介護計画の理解を図る。 	6ヶ月
2	35	避難訓練に地域住民の方の参加がされていない。防災マニュアルも確認されていない。	防災への意識を高めるとともに、地域住民の参加された避難計画を実施することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議等を通して避難訓練への協力を働きかけていく。 ・日常的に地域との交流を密にしていく。 ・ミーティングにおいて防災マニュアルを確認していく。 ・防災マニュアルを見やすいところへ置いておく。 	1年
3	4	運営推進会議は、年2回だが、一定間隔での定期的な開催がされていない。	運営推進会議を半年に一回の開催を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の年間の予定を策定するなかで運営推進会議を一定間隔で計画していく。 ・法人本部や行政機関等と開催について協議していく。 	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。